

2015年度活動報告

フランス文学教室／フランス語圏文化論教室

1. 2015年度 フランス文学教室の活動

<2015年>

4月6日（月）フランス文学教室新学期オリエンテーション（学部・大学院合同）

7月31日（金）卒論・修論中間報告会 第1回

10月～12月

連続国際セミナー「文学と死」

場所＝首都大学東京（南大沢）本部棟2階 特別会議室

司会＝西山雄二（フランス文学）

使用言語：英語あるいはフランス語、日本語訳を配布

主催＝平成27年度首都大学東京・教育改革推進事業「国際理解を養うための「比較文化」教育プログラム」

10月28日（水）演劇における死——死骸と幽霊

講演者＝ブリジット・プロスト Brigitte Prost（レンヌ第二大学）

コメント＝高橋博美（レンヌ第二大学）、榎本恵子（首都大非常勤）

11月11日（水）魯迅の散文詩「死後」について

講演者＝デンニツァ・ガブラコヴァ Dennitza Gabrakova（香港城市大学）

コメント＝大杉重男（日本文学）、荒木典子（中国文学）

12月16日（水）「あなたは私の死だった」——文学における死について

講演者＝ダリン・テネフ Darin Tenev（ブルガリア・ソフィア大学）

コメント＝山本潤（ドイツ文学）、南谷奉良（一橋大学）

12月10日（木）卒論・修論中間報告会 第2回

<2016年>

2月4日（木）卒論・修論公開審査

2. 修士論文・卒業論文題目一覧

修士論文

飯澤愁「可能性としての倫理——ジャック・デリダの「動物の問い」を通したエマニュエル・レヴィナスの思想読解」

卒業論文

土橋萌「カミュ『異邦人』における色描写の重要性」

野木春奈「メリメ『カルメン』におけるカルメンの描写」

三浦将「フランスの表現の自由の内における諷刺とは何か」

山口莉奈「フランソワ・ヴィヨンと「死」」

3. 教員・大学院生の研究活動

（書籍、論文、翻訳、学会発表など）

石川知広

〔論文〕

「コギト、狂気、表象のキアロスクーロ——フーコー／デリダ論争から17世紀表象論へ」『人文学報』第511号、189-228頁。

〔連続講演〕

「〈表象〉のパスカル——パスカル学への新たな寄与の試み」(全3回) メイン・スピーカー

第1回 フーコーと17世紀のエピステーメー：デカルト、パスカル、ポール＝ロワイヤル

基調講演「いわゆる表象の透明性（フーコー）について」、2015年7月25日（大阪大学）

第2回 基調講演「パスカルとユダヤ人」、2015年10月10日（岡山大学）

第3回 基調講演「『パンセ』と書物の〈深淵＝無限反復〉」、2015年12月19日（慶応大学）

大久保康明

〔演奏発表〕

グノー「たそがれ」、アーン「恍惚の時」(Ch. Gounod, *Le soir*, Hahn, *L'heure exquise*)、グループ・ベアレ・ムジカ定期演奏会、武蔵野音楽大学パルナソス多摩シューベルト・ホール、2015年6月7日。

〔演奏画像〕アーン「恍惚の時」(Hahn, *L'heure exquise*)、2015年6月20日。

藤原真実

〔論文〕

「『恋愛地図』の討論会：『とさか毛のリケ』の場合」、『人文学報』第511号、321-339頁。

〔学会発表〕

« Le sacré commerce selon Robert Challe », Table ronde : *Robert Challe et le commerce*, ISECS 2015, 14th International Congress for Eighteenth-Century Studies, Rotterdam, Erasmus University, July 27-31, 2015.

〔その他〕

「月組宝塚大劇場公演『舞音—MANON—』～フランス文学史に印された「マノン・レスコー」の作者プレヴォの足跡～」ワールドワイドオブタカラヅカ、特別企画第102回、『歌劇』2015年11月号、104-107頁。(インタビュー記事)

西山雄二

〔書籍〕

齋藤元紀編『連続講義 現代日本の四つの危機 哲学からの挑戦』、講談社選書メチエ、2015年、分担執筆＝「大学の危機と哲学の問い」、67-90頁。

“After the End of the World: in an Apocalyptic Tone by Jacques Derrida”, Futoshi Hoshino and Kamelia Spassova (eds.), *The Sublime and the Uncanny (UTCP Booklet 27)*, 2016.

〔論考〕

「人文学の後退戦——文科省通知のショック効果に抗って」、『現代思想』2015年11月号、182-189頁。

「脱構築の約束——生き延びるジャック・デリダ」、『ふらんす』2015年11月号、12-14頁。

「人文学の弁明——国際哲学コレージュの危機から」、『IDE 現代の高等教育』第575号、2015年11月号、47-50頁。

「ヨーロッパにおける知の十字路ストラスブール」、『ふらんす』2016年3月号、17-18頁。

〔翻訳〕

ジャック・デリダ『哲学への権利』第二巻、西山雄二・立花史・馬場智一・宮崎裕助・藤田尚志・津崎良典訳、みすず書房、2015年、全480頁。

Michel Deguy, *Prose du suaire*, Al Manar, 2015, 「屍衣の散文的賛歌」, pp. 31-32.

ジャン＝クレ・マルタン「ドゥルーズとデリダ、両者の運動は同じではない」西山雄二・大江倫子訳、『人文学報』第511号、2015年6月、31-42頁。

パトリック・ロレッド「動物は人間のように愚かであることができるか——デリダとドゥルーズをめぐる「超越論的愚かさ」について」西山雄二・小川歩人訳、『ドゥルーズ 没後20年新たなる転回』、河出書房新社、2015年、172-181頁。

ブリジット・プロスト「演劇における死——遺骸と幽霊」榎本恵子・西山雄二訳、『人文学報』第512-15号、2016年、3-25頁。

フランチェスコ・ヴィターレ「テキストと生物——生物学と脱構築のあいだのジャック・デリダ」西山雄二・小川歩人訳、『人文学報』、第512-15号、2016年3月、167-190頁。

〔学会発表〕

« La crise de l'université et la question des Humanités dans Jacques Derrida, *L'université sans condition* », Colloque international "Université ou anti-Université?", Paris, Maison Heinrich Heine, organisé par Collège international de Philosophie (CIPh), 14-15 octobre 2015.

« L'adresse de l'entre-nous: l'interprétation plastique de Hegel chez Jean-Luc Nancy », Colloque international "Mutations - autour de Jean-Luc Nancy", Université de Strasbourg, organisé par Université de Strasbourg et CIPh, 18-20 novembre 2015.

「ジャック・デリダ『哲学への権利』をめぐる」、共同ワークショップ「ドゥルー

ズとデリダ」、グランフロント大阪北館タワー、主催＝脱構築研究会、科学研究費助成事業基盤研究（B）「ドゥルーズ研究の国際化拠点の形成」、2015年12月20日。

Écrans philosophiques : « Comment représenter la catastrophe après les événements à Hiroshima et à Fukushima ? », Cinéma Méliès de Montreuil, organisé par CIPh, 17 mars 2016.

« Jacques Derrida au Japon », Journée d'étude "French Theory au Japon", Paris, Maison Heinrich Heine, organisé par CIPh, Université métropolitaine de Tokyo et The University of Tokyo Center for Philosophy, 19 mars 2016.

〔その他〕

小林康夫・西山雄二対談「人文学は減びない」、『週刊読書人』2016年1月8日号、1-8頁。

書評：小林康夫『君自身の哲学へ』／荒川修作＋小林康夫『幽霊の真理 絶対自由に向かうために』、『週刊読書人』2015年5月22日号、4頁。

クリス・ベルアド Chris Belouad

〔書籍〕

長谷川富子、伊川徹、饗庭千代子共編『フランスと日本 ―遠くて近い二つの国―』、早美出版社、2015年3月、分担執筆＝「19世紀後半のフランスにおける「日本」―レオン・ド・ロニー著『青竜寺』を中心に」、135-147頁。

足立和彦、岩村和泉、林千宏、深川聡子、ベルアド・クリス共著『即効！フランス語作文已紹介・メール・レシピ・観光ガイド』（*Effet immédiat ! Cahier d'exercices pour écrire en français : se présenter, communiquer, parler de sa culture*）、駿河台出版社、2015年7月、全224頁。

〔論文〕

「「日本における新しい宗教―それはいかにして創られるのか」（1875年）―レオン・ド・ロニーと島地黙雷の対談について―」、『仏蘭西研究』41号、日本仏学史学会、2015年6月、27-39頁（査読有）。

〔連載〕

「Le Nouveau Labo-translation ～なるほど！仏作文ラボ」（全12回）、『ふらんす』、白水社、2015年4月～2016年3月、毎号3頁。

〔招待講演〕

「レストランとシェフでめぐるフランスグルメの旅」、共立女子大学文芸学部主催企画「フランス語圏文化講演会」、共立女子大学文芸学部（於：東京都千代田区、共立女子大学）、2015年6月25日。

〔その他〕

「(日曜に想う) 大分弁・西諸弁・マルセイユ弁」、『朝日新聞』、2015年10月25日朝刊、2面（インタビュー）

小玉司（博士課程）

〔学会発表〕「葬送と再生——シリーズ『リゴドン』における「死」の描写」、日本フランス語フランス文学会春季大会、明治学院大学、2015年5月30日。

大江倫子（博士課程）

〔翻訳〕ジャン＝クレ・マルタン「ドゥルーズとデリダ、両者の運動は同じではない」西山雄二・大江倫子訳、『人文学報』第511号、2015年6月、31-42頁。

〔学会発表〕「初期デリダにおけるハイデガーの遺産相続——『ハイデガー』講義と存在論的差異」、日仏哲学会秋季研究大会、立教大学、2015年9月12日。